

北播磨地域ビジョン委員会「生活分科会」 第3回記録

- 1 日時：令和2年8月27日（木） 18：00～19：00
- 2 場所：兵庫県社総合庁舎本館入札室
- 3 参加者：生活分科会メンバー5名出席、5名欠席
- 4 実践活動計画について

(1) 方向性の確認

前回のまとめ(県民局 HP)から、①助け合い支えあう地域システムの構築(高齢者や障がい者などの社会的弱者に我々ができること)、②防災(前期の取り組みを踏襲し発展させる)の2点に方向づけることを確認。

(2) 実践活動の内容について(意見交換)

〇〇：社会的弱者である高齢者、障害者、子ども、外国人について、どうい  
うことが困っているかを理解できていないし、知識もない。社会的弱者  
を支援している団体に話しかけて、ヒヤリングして、直接的に社会的弱  
者を取り巻く周りの人、環境をどう変えるのかという焦点を当てていく。  
当事者に実際に話を聞いて現実を知っていくことが必要。

〇〇：防災であれば社会的弱者でなくてもいいのでは。

〇〇：子どもの目線、高齢者の目線は違う。足の悪い方、子ども、外国人が  
同じように逃げれるか。周りを変えていく。どうサポートしていくか。  
その辺から発信していけたら。そのため、実際支援されている団体に行  
ってどういう支援をされているかを勉強することは必要。

県民局：勉強して、高齢者、障害者を具体的にわかって、どう支えていくかを県民の人にわかってもらう。施設とかのハード面ではなく、意識の高揚が必要。7期の成果物の日めくりカレンダーとか、防災マップ、スロープのありかを掲載したパンフレットの配布とかの成果物が必要。活動の成果をどこかに普及していく視点で考える。子どもたちにもわかりやすいと、かみやすく年寄りもわかるとか。成果物を普及する方法を考えることも必要。

〇〇：マップなら、駐車場からの距離とかがわかれば有効。

県民局：出前講座、防犯なら、防犯協会も来てもらってもよい。自分たちが学んでやることも。障害の介護の仕方がわかる講座。紙芝居とかを使った講座とか。

〇〇：防犯で話すことある。警察と高校生とで寸劇をしていただく。出前講座のオファー、寸劇、動画も有効。

県民局：文化分科会では、アプリを使ってスタンプラリーみたいなことをやりたいという話も。文化だけでなく、ビジョン委員会の分科会ごとにアプリを使っていくことも。コンピューター会社の人がある。動画が何個もできるのか検討が必要。

〇〇：DVDや、動画をユーチューブ配信できる。いつでもどこでも見れるし、お金もかからない。

県民局：ネタを集めてユーチューブをやるとか、寸劇をみんなで考えていく

とか。具体的なテーマが不足している。

〇〇：何についての映像がいるのか。どんなことについて普及していくかの視点が必要。

県民局：出てくれる人とわれわれと一緒に踊る。コーディネートしていけば。

### (3) 次回の宿題

成果物の普及方法については、マップ、パンフレット、出前講座、紙芝居、寸劇、動画、アプリ、DVD、ユーチューブなど色々な方法があるが、誰もが理解でき参加しやすい方法を考えていくとよいが、その前提となる活動のテーマがまだメニュー不足である。次回、具体的に普及するテーマを、宿題として考えてきていただきたい。

- (例) 防災マップの見方を一緒に学ぶ(図上、現地踏査)
- 避難所グッズの体験(避難所でのマナー、課題)
- 災害復旧工事の現場で学ぶ(災害の恐さを目で感じる)
- 大地震への備えを家庭、地域で行う(非常時の助け合い)
- 災害弱者にとっての防災、減災を知る講座
- 気象情報を正しく理解するわかりやすいPR

(4) 次回開催予定 9月17日(木) 18時～、県民局入札室

5. 閉会